インドネシア政府学部生派遣プログラムIISMAへのチャレンジ

海外交流

藤　山　和　仁*

Challenge for implementation of
Indonesian International Student Mobility Awards (IISMA) program

Key Words：Indonesia, International Student Mobility Awards program, IISMA

1．はじめに

Indonesian International Student Mobility Awards（以下、IISMA）は、学部生および専門学生が世界中の最高の大学や産業界で1学期相当を過ごすための国際的なモビリティを目指す奨学金制度プログラムである。

インドネシア政府 Nadiem Anwar Makarim 教育・文化・研究・技術大臣が IISMA を提唱し、始まった。Nadiem Anwar Makarim 大臣は、ジャカルタに本社を置くベンチャー企業 Gojek（ゴジェック）の創始者である。United World College of South East Asia（シンガポール）、ブラウン大学（2002－2006年）、ハーバード・ビジネス・スクール（2009－2011年）での教育歴を持つ。インドネシア大統領のもとで教育・文化・研究・技術大臣に任命されている。第1回（2021－2022年）にて28カ国59の世界的な大学での交換留学プログラムに970名のインドネシア人学生を派遣することで始まった。第1回の日本の参加大学は、東北大学、岡山大学であった。

大阪大学の国際化に向けた活動として、IISMA プログラムに取組んだ。

2．IISMA の特徴

インドネシア政府が支給する奨学金制度プログラムで、下記の点がカバーされている。

* Kazuhito FUJIYAMA
1961年8月生まれ
大阪大学工学部附属生物工学国際交流センター助手（1988年）
現在、大阪大学　生物工学国際交流センター　センター長　教授　工学博士
TEL：06-6879-7455
FAX：06-6879-7454
E-mail：fujiyama@icb.osaka-u.ac.jp

1）Registration and Tuition Fee（登録料、授業料）
2）Health Insurance Fee（健康保険費）
3）Settlement and Living Allowance（住居関連経費）
4）Economy Airfare and Visa（渡航費、ビザ取得費）
5）Emergency Fund

学生はオンラインで応募し、IISMA 事務局がテストやインタビューを行い、選抜する。

3．本学の取り組み

1）インドネシア大使館教育文化担当官からの紹介

2021年6月18日（金）、駐日インドネシア共和国大使館の Heri Akhmadi 駐日特命全権大使が大阪大学を表敬訪問された。その際に同行されていた同大使館のユスリ・ワルディアトノ教育文化担当官（Prof. Dr. Ir. Yusli Wardiatno）よりこのプログラムの紹介を受けた。

2）主な流れ

今回初めて IISMA プログラムに応募して IISMA と連携して運営するケースであるため、私が関係するバイオテクノロジー分野で始めることで運営上の問題点などを抽出して理解することに努めた。どのような作業を行い、プログラム構築を行ったのか参考になればと考え、時系列で下記に示す。

(1)　2022年9月23日に IISMA による説明会がオンラインで開催され、大阪大学国際部国際学生交流課職員とグローバルイニシアティブ機構 Clement Angkawidjaja 特任講師が参加した。

(2)　国際学生交流課と2023年度国際交流科目（秋冬学期）の開講予定科目リストを参考に履修科目について協議した。

(3)　12月19日に IISMA Director である Dr. Rachmat Sriwijaya より公募開始のレターを受取った。

(4)　IISMA プログラム用の特別コース（IISMA 特別研究 A, B, C）を国際教育交流センター開講科目（国際交流科目）として構築した。
(5)　2023 年 1 月 23 日に河原源太グローバル連携担当理事（当時）と受入人数について検討し、まずは 7 名から始めることとした。
(6)　1 月 24 日に IISMA にオンラインでパートナー校申請を行った。
(7)　2 月 22 日に IISMA 事務局より、大阪大学が Selected as partner university for the 2023 IISMA Program として採択されたとの連絡があった。翌日には、IISMA 事務局より IISMA との協定書のひな型の送付があった。
(8)　4 月 20 日に IISMA 主催で「IISMA 2023 ASIA REGION WELCOMING GATHERING」が開催された。IISMA 全体セッションのほかホスト大学との個別セッションも行われ、採択学生（以下、「IISMA 学生」という）と初顔合わせを行った。431 名の希望者から IISMA 事務局が大阪大学に派遣する 7 名の選抜を行い、我々はこの日に初めて紹介された（表 1、表 2）。大阪大学の簡単な紹介、担当者の自己紹介を行った。特に、工学研究科 Sastia Putri 准教授からはバイオテクノロジー関連プログラムの説明がなされた。なお、この時、IISMA 事務局から丁寧な説明がなされ、参加学生間で話合いが行われて学生代表者などの選抜が行われたようである。
(9)　5 月 12 日に、IISMA 学生 7 名に大阪大学用の申請書と成績証明書を提出するよう依頼した。その際、履修希望科目の照会も行った。
(10) 5 月 25 日開催の国際交流委員会傘下の部会にて IISMA 学生の受入れを、26 日開催の国際教育交流センター教授会にて学籍付与（身分：特別聴講学生）を附議し、承認された。6 月 6 日に、受入許可書（Letter of Acceptance）を IISMA 学生 7 名あてに送付した。
(11) 学生本人の希望やクラスキャパシティなどを踏まえ、9 月に各学生の履修科目を決定し、国際学生交流課で履修登録を行った。
(12) IISMA は授業料不徴収の協定書に基づく交換留学プログラムではないため、授業料を IISMA より徴収した。具体には、IISMA 事務局に 7 名分の授業料、保険料（学研災、学研災付帯学総）及び空港送迎にかかる費用の請求書を送付した。
(13) プログラム終了後、ホスト校として次の書

表 1．2023、2024 年度の公募基準と応募結果

	2023	2024 募集 [3]
応募者	431 名	
GPA	2.91-4.00	3 以上
英語能力		
TOEFL iBT Score	100-107	80
IELTS Score	5.5-8.5	6
Duolingo English Test Score	60-155	110
その他要件		Students must have biotechnology background knowledge prior to the program.
採択者	7 名	4 名（予定）
GPA	3.48-3.97	
英語能力		
TOEFL iBT Score	-	
IELTS Score	8	
Duolingo English Test Score	145-155	

表 2.　参加者在籍校・専門分野等

	在籍校	性別	留学時学年*	専門
1	Atma Jaya Catholic University Indonesia	F	B3	Psychology
2	Multimedia Nusantara University	F	B4	Communication Studies
3	Universitas Gadjah Mada	M	B4	Economics and Business
4	Universitas Gadjah Mada	F	B4	Mathematics and Natural Science
5	Universitas Indonesia	M	B4	Social and Political Sciences
6	Universitas Indonesia	M	B4	Humanities
7	Universitas Islam Indonesia	M	B3	Psychology & Socio-Cultural Sciences

*2023 年秋

類を発行した。

・プログラム参加証と成績証明書（学生毎）

・IISMA 2023 Progress Report（学生毎に作成。学生自身とホスト校それぞれが作成するパートがあり、ホスト校は IISMA 参加学生の学習の進捗や課題などを記載しサイン。）

・IISMA 2023 Final Report（ホスト校としてプログラムの評価、課題、提案などを記載。）

3）プログラムの実施

(1)　2023 年 9 月 25 日、IISMA 学生 7 名が来日した。IISMA 事務局の要望により、関西国際空港から参加者が滞在する学生寮であるグローバルビレッジ津雲台までの送迎を行った（旅行会社に委託）。

(2)　9 月 29 日、生物工学国際交流センターにて「Orientation for IISMA students」を開催した。国際学生交流課より授業時間割やキャンパスマップを配付したほか、資料に基づいて日常生活に係る注意事項や各種手続きなど詳細な説明があった。また、工学研究科 Nikko Adhitama 助教と藤山より学術的なオリエンテーションを行った。

(3)　10 月 2 日、秋学期開始。IISMA 特別研究を毎週金曜日午後に実施し、Clement Angkawidjaja 特任講師、Sastia Putri 准教授、Nikko Adhitama 助教の協力を得て、IISMA 学生はバイオテクノロジーの基本的な実験などを体験した。

(4)　10 月 23 日、起業を実現可能なキャリアパスとして考える動機付けなどを与えることを目

図 1　Heri 大使のご講演後の教員との集合写真

図2　カップヌードルミュージアム大阪池田

的に、Clement Angkawidjaja 特任講師が企画し、BYO Living 創業者・社長の Lim Masulin 氏を招き、Global Entrepreneurship Seminar を開催した。

(5)　2024 年 2 月 2 日在本邦インドネシア共和国大使館より Heri Akhmadi 駐日特命全権大使にお越しいただき、IISMA 学生のみならず留学生、国際交流関係者に対して特別講義を実施いただいた（図 1）。

(6)　2024 年 2 月 5 日カップヌードルミュージアム 大阪池田を訪問し、ラーメン誕生の歴史、マイカップヌードルファクトリーでの実地体験などを行った（図 2）。

(7)　2 月 9 日に帰国した。

4．第 1 期を終えて

IISMA プログラムに応募することで、新規プログラムの編成、応募時や受入れ時の問題点と新しい発見などがあった。下記に具体的に示す。

1）IISMA の送出しプログラムとして、ユスリ・ワルディアトノ教育文化担当官と IISMA 担当者が、学生に Pre-Departure Briefing を行っていたようで、Youtube で視聴できる（インドネシア語）。[1)]

2）本学での応募・学生受入れは今回初めてのケースであり、私が関係するバイオテクノロジー分野でプログラム編成を考え、運営上の問題点などを理解することに努めた。前述のとおり、IISMA 事務局が希望者 431 名から 7 名の学生を選抜した。結果、バイオテクノロジー関連のバックグランドを有する学生がおらず、かつそのことを 2023 年 4 月 20 日の「IISMA 2023 ASIA REGION WELCOMING GATHERING」で知り、困惑した。それでも、来日後の IISMA 特別研究では、人文社会科学系の学生にも親しんでもらえるように実験内容を工夫した。参加学生の英語能力は高く、優秀な学生ばかりで、自発的に活動できる能力を持っていた（表 1）。2023 年 IISMA 全体の資料を下記に示す。

参加（受賞）学部生	1415 名
ホスト大学	75 校 （QS Top 100 校 18 校）
参加国	25 カ国

2024 年度の IISMA 事務局による学生選抜結果でも、提示された 7 名のうち、バイオテクノロジー関連を背景とする学生が非常に少なく、最終的に受入れを 4 名とした。本学の他には、2024 年のプログラムにホスト大学として慶応義塾大学、上智大学も採択されたようである。

3）コロナ禍が明け、全学交換留学プログラム申請学生が激増したため、2023 年秋冬学期開講の国際交流科目について IISMA 学生も含め履修制限が生じた。全学規模の問題で、学部向け英語科目が十分対応できる状態にないと感じた。

図3　学生の交流の様子

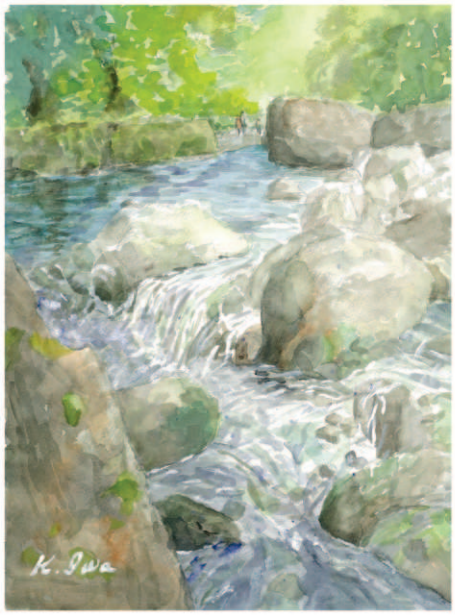
4）学生が滞在中いろいろな活動をしていた。私はSNSに疎いが、彼らはいろいろな活動をInstagramに挙げていた（フォロワー 1675人）。[2] IISMA学生7名は、いろいろな役割（学生代表、秘書、イベント、メディア、会計）を分担し、それぞれに紹介していた。大阪大学の「観光大使」を務めてくれていたようである（図3）。

5．最後に

2024年10月より大阪大学で4名の学生が就学する予定で、大変楽しみである。

2023年秋受入れにおいては、バイオテクノロジー関連のインドネシア出身教員3名Clement Angkawidjaja特任講師、Sastia Putri准教授、Nikko Adhitama助教に多大な協力を得た。また、国際学生交流課職員、特に柳原秀範課長、矢田昌子課長補佐、のご協力なくしてはプログラムの編成などが出来なかった。厚く御礼申し上げます。

今回初めてIISMAプログラムで学部生7名をバイオテクノロジー分野で受入れた。この試みで、新規プログラムの編成と運営のノウハウを得た。希望者は人文社会学分野が多く、当該分野でのプログラム実施は大阪大学の国際化につながっていくものと期待している。

参考資料

1) https://www.youtube.com/watch?v=jc3IIEYMEdo
2) https://www.instagram.com/iisma.osaka/
3) https://iisma.kemdikbud.go.id/info/18-osaka-university/